

平成23年度 小・中学校研究主任研修 I 説明資料

土佐町小学校 校内研究のすすめ方

土佐町小学校 研究部

土佐町立 土佐町小学校

平成21年度に5校が統合(170名)

同居型小中連携校

スタート！ ↓ したものの...

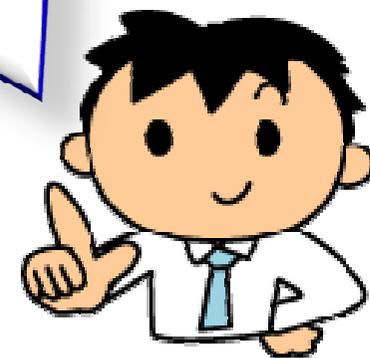
まだまだ、発展途上中！

どうぞ気楽に見て下さい。



研究テーマ

資料1「土佐町小 研究構想図」を
参照してください。



支援サイクルに基づいた研究の取組



教師や保護者の「意欲的な姿」のとらえ

八千代市教育センター平成17年度調査研究報告書

教師

- 自ら課題に取り組む
- 目が輝いている

- 進んで質問してくる
- つぶやきが多い

保護者

- 机に向かう
- テストが良い

- 宿題以外をする
- 自分で調べている

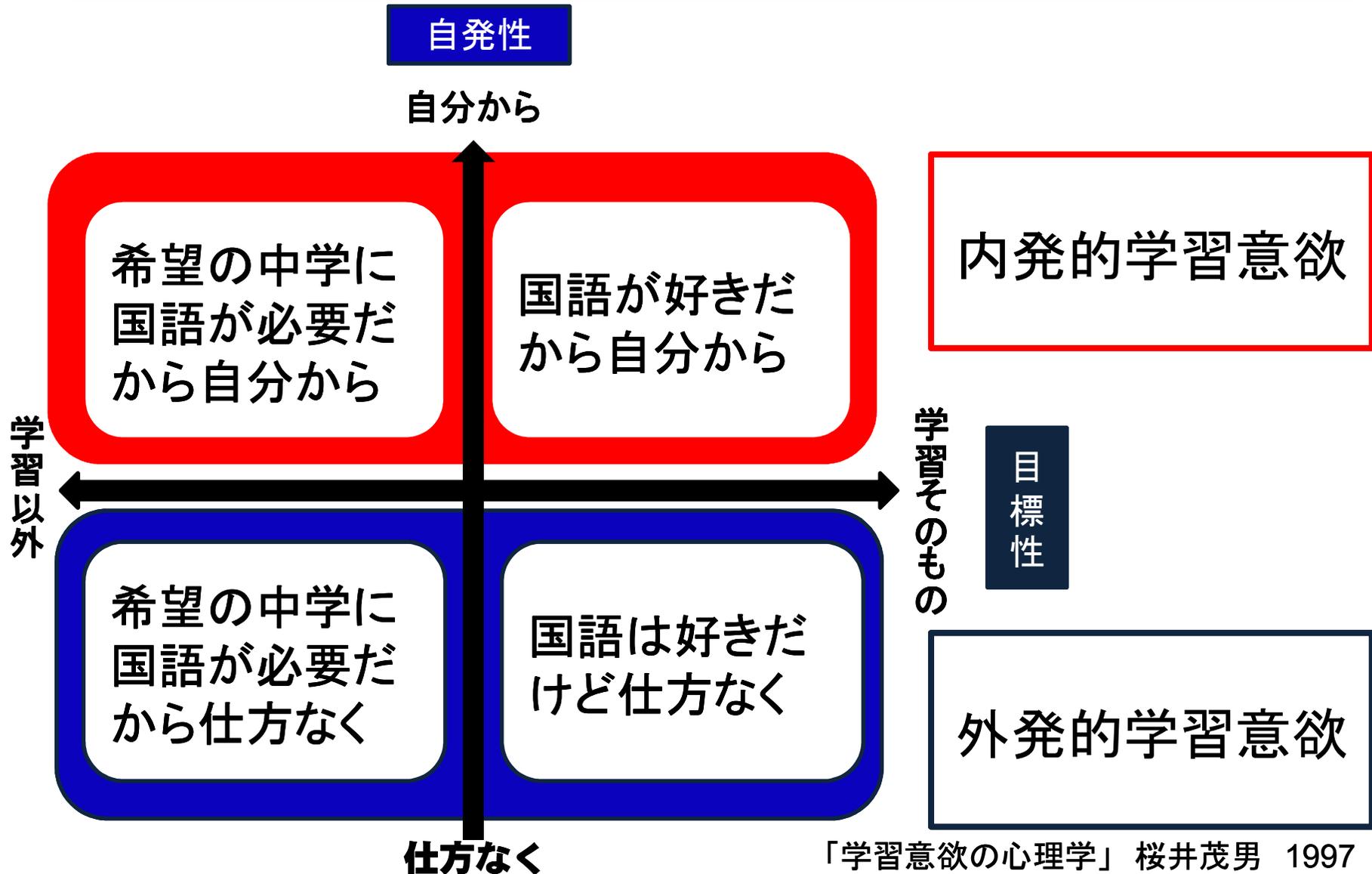
捉え方が多様



支援の方法も多様化

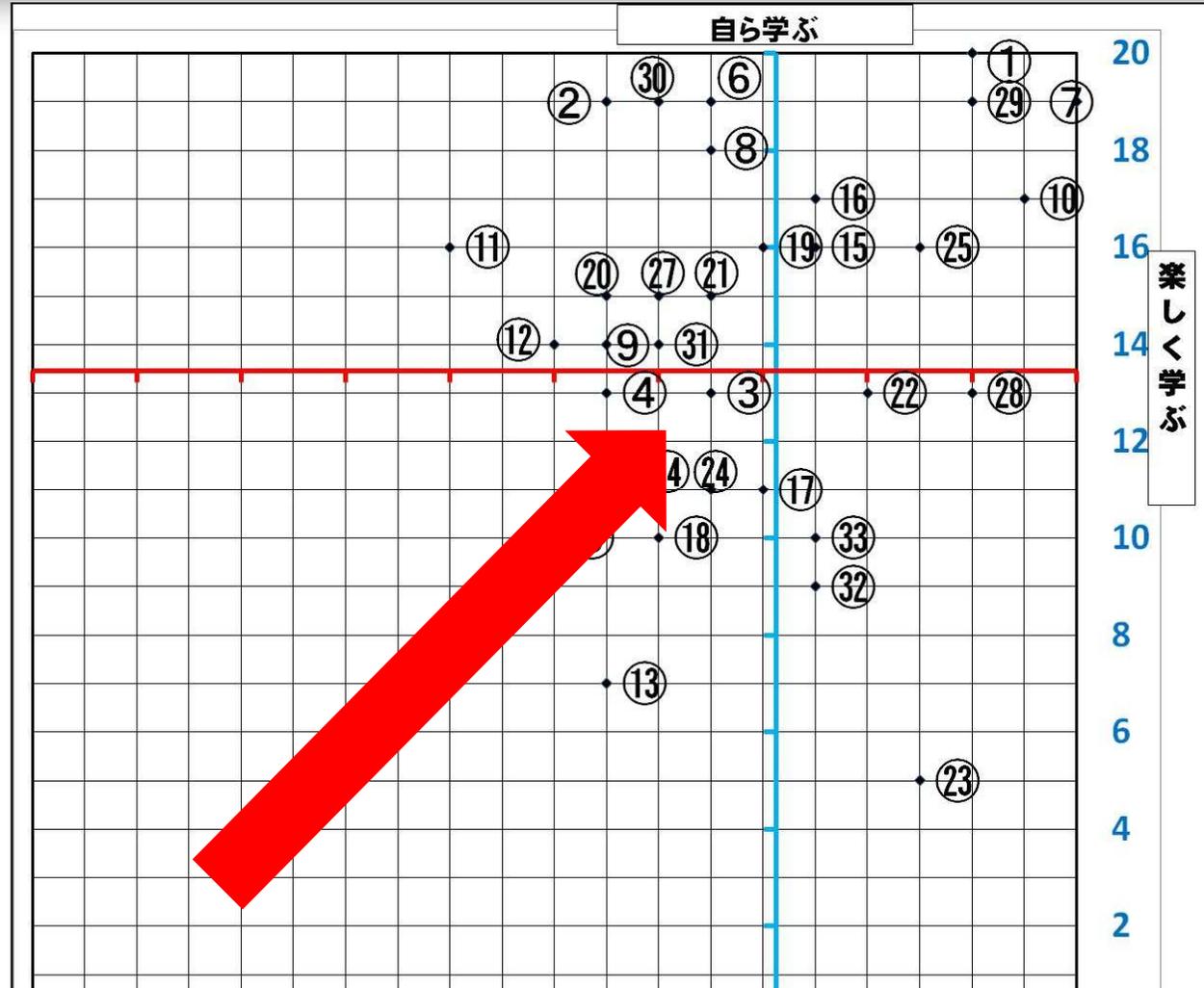


学習意欲の観点



R

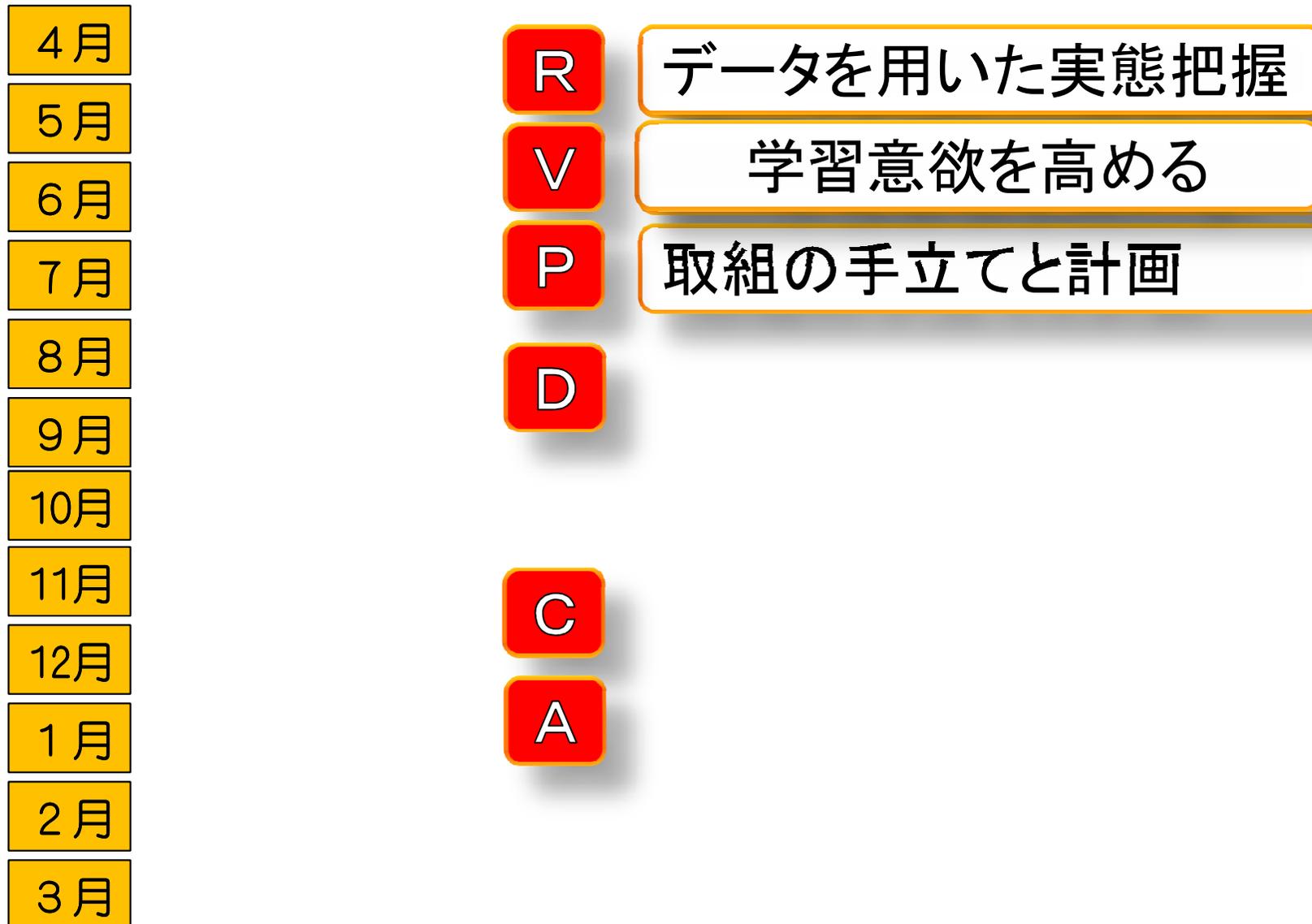
数値データを用いた実態の把握



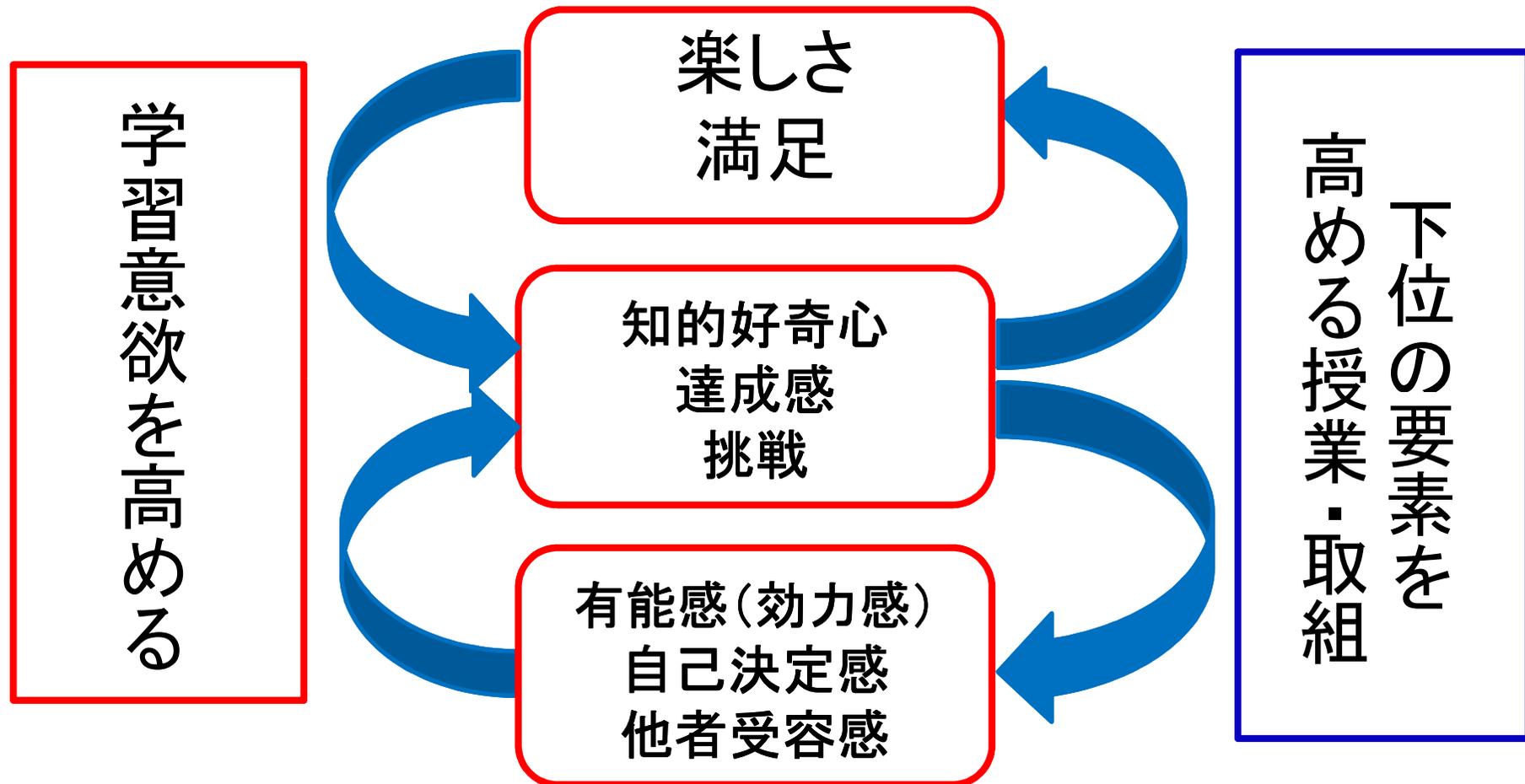
V

児童の学習意欲を現状より高める

支援サイクルに基づいた研究の取組



学習意欲発現プロセス



「学習意欲の心理学」 桜井茂男 1997

P

先進校視察からの実践モデルの確立(今年度)

和歌山大学
附属小学校
(2名)

大阪府
松原第七中学校
(2名)

香川県
滝宮小学校
(2名)

土佐市立
新居小学校
(2名)

大阪府
郡家小学校
(3名)

須崎市立
須崎小学校
(4名)

新潟県五泉市立
村松小学校
(1名)

大阪府
五領小学校
(5名)

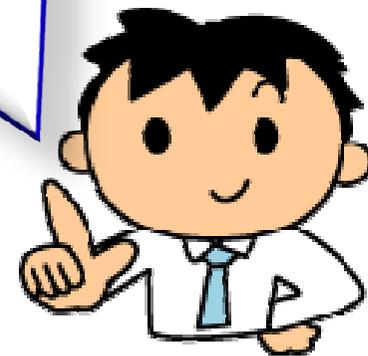
学年	項目	授業の組み立て	学習環境 (学習形態)	児童同士のかかわり				教師と児童との かかわり (発話)
				自分の考えを持つこと	友達に自分の考えを伝えること	友達の考えを聞くこと	友達の考えから 自分の考えを振り返ること	
低学年		児童が学び合うことを必要と感じるような課題設定	ペア	1年 意思表示ができる姿 (表情・つぶやき・挙手) 2年 ワークシートに書くことができる姿	1年 最初に目を合わせてから、 ペア(となり)の人に言う姿 2年 (ペア・班・全体に)書いたもの 分かるように(声の大きさ、体 の向き)伝える姿	1年 うなづく、わかりましたなど 反応しながらきく姿 2年 自分と違う意見を最後まで聞 き、分からない事はたずねる姿		ほめる 認める
		自己決定場面	ペア→班	ノートに自分の考えを書く姿 (最低でもイエスorノーと意 思表示ができる)	理由をつけて伝える姿 図や絵などを使って、分かり やすく伝える姿	賛成か反対か判断する姿 友達の意見に対し、説明や 質問する姿	自分の考えをまとめる姿	価値のある発言を ほめる 教師から全体に広 げる
高学年		学び合い・学習の振り返り	班(4人) (ペアも可)	自分の考えを持ち、必要な 事柄をノートやシートにまと める姿 言葉を選んだり、資料など を活用して伝える姿	課題に沿って、相手の意見 とつなげて自分の考えを伝 える姿 言葉を選んだり、資料など を活用して伝える姿	相手の意見と比較しながら 聞く姿	自分の考えと友達の考え、 学び合ったことを自分の言 葉でノートやワークシートに まとめたり、振り返ったりす る姿	児童同士をつなげ る

P

土佐町小学校「学びのスタンダード」

資料2

「学びのスタンダードにそった展開例」を
参照してください。





授業者に対して「よかれ」と思う、 個々の「思い」は大切です



しかし、その「思い」が、
授業者にとっては、混乱を
招く種になることも……

P

土佐町小学校事前研の持ち方



授業者の展開の意図に沿って、助言する形式の検討会

- ① 授業者は、参観する視点について授業の意図が伝わるように説明。
- ② 授業者が検討して欲しい課題や助言を求める点を述べる。
- ③ 参加者は、検討課題に対し、授業者の意図に沿って、助言を行う。

P

土佐町小学校授業参観の仕方



ブロックごとに視点を決めての参観

授業の組み立て

4つの事柄が設定
された組み立て

本時のねらい

学習環境

学び合いの形態

学び合いに入る
タイミング

児童同士の
関わり

言動や表情から、
児童同士は
学びあえていたか

教師と児童との
関わり

児童に対する発話

具体的な言葉は？

P

討議の焦点化・活発化を図る



② 参観した視点について「良かった点」と「改善点」を話し合う。



① できたこと、できなかったことを述べる。

⑤ 授業者は、出された代案から「やってみたいもの」を選択し、述べる。

③ 「良い点」を児童を主語に具体的に話をする。



④ 「私はこうする」と具体的に提案



P

結果の掲載



2010年度 土佐町小学校 研究通信
2010. 6. 8 NO.0

全教員、一回以上の公開研究授業



全二十一回実施



事後研の記録

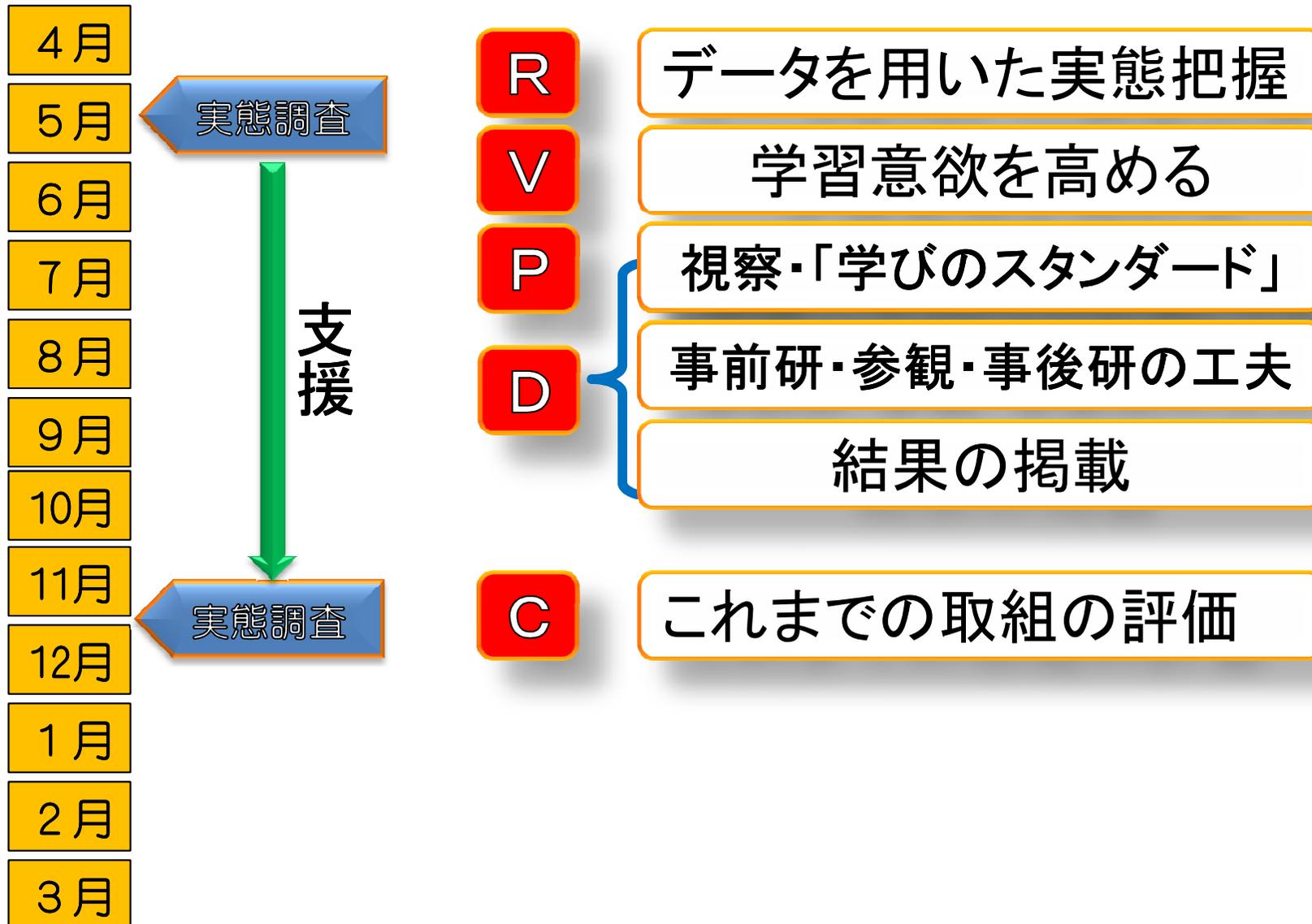
授業者より	<ul style="list-style-type: none"> 「手品師はこのあとどうしますか」という二択にはしなくなかった。人の心はそんなに簡単に割り切れない部分を数値化することで表したかった。 「手品師に後悔はなかったか」と問い、「後悔がない」と答えるならば、「なぜ、そんなに悩んでいたのにすっかりできたのだろう」と問うことで手品師の誠実な心情を気づくようにした。しかし、実際は「後悔している」という意見も見られたので、「誠実」というねらいにはまだ迫れないと思い、方向転換をした。 自分の意見を出しづらいという児童の実態から、手品師の心の中をあえて一つにまとめるように指示をすることで、話し合いを喚起するようにしたが、実際それで良かったのかお聞かせ願いたい。 学び合いを2回入れた。ただ、2回目の学び合いをさせる時間が遅かった。 				
	参観者より	<table border="1"> <thead> <tr> <th>良い点</th> <th>代案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 途中で物語を切ったのが良かった。 心の中を数値化しマグネットで見せることによって心の中を可視化することができ、話し合いをすすめる上で有効だった。 感情線を利用することで考えの位置づけができて有効だった。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> N君の大劇場という発言をまとめずに理由を聞いて周りの子の投げかけると良かった。 最初・中間・最後の心の変化（軌跡）が残る工夫があれば良かった。 男の子と劇場のお客さんのどちらがより手品師を求めているかを比べてみると良かった。 最後のところ、1時間で終わらすために、「どうしてこうしたんだろうね」と聞くと良いかも。 導入で約束について考えないでいきなり「手品師」に入っては、ワークシートに書く時間をもう少し多くして理由を明確にしてから感情線を利用する。 はじめから2時間扱いにする。 1時間扱いにするなら活動4では、「やっぱりと言えたのはなぜか」という課題を提示し、自分の決断に後悔がないことを押さえたい。 最初から一つに意見をまとめさせ </td> </tr> </tbody> </table>	良い点	代案	<ul style="list-style-type: none"> 途中で物語を切ったのが良かった。 心の中を数値化しマグネットで見せることによって心の中を可視化することができ、話し合いをすすめる上で有効だった。 感情線を利用することで考えの位置づけができて有効だった。
良い点	代案				
<ul style="list-style-type: none"> 途中で物語を切ったのが良かった。 心の中を数値化しマグネットで見せることによって心の中を可視化することができ、話し合いをすすめる上で有効だった。 感情線を利用することで考えの位置づけができて有効だった。 	<ul style="list-style-type: none"> N君の大劇場という発言をまとめずに理由を聞いて周りの子の投げかけると良かった。 最初・中間・最後の心の変化（軌跡）が残る工夫があれば良かった。 男の子と劇場のお客さんのどちらがより手品師を求めているかを比べてみると良かった。 最後のところ、1時間で終わらすために、「どうしてこうしたんだろうね」と聞くと良いかも。 導入で約束について考えないでいきなり「手品師」に入っては、ワークシートに書く時間をもう少し多くして理由を明確にしてから感情線を利用する。 はじめから2時間扱いにする。 1時間扱いにするなら活動4では、「やっぱりと言えたのはなぜか」という課題を提示し、自分の決断に後悔がないことを押さえたい。 最初から一つに意見をまとめさせ 				

授業の組み立て

成果と課題を全体で共有するのだ



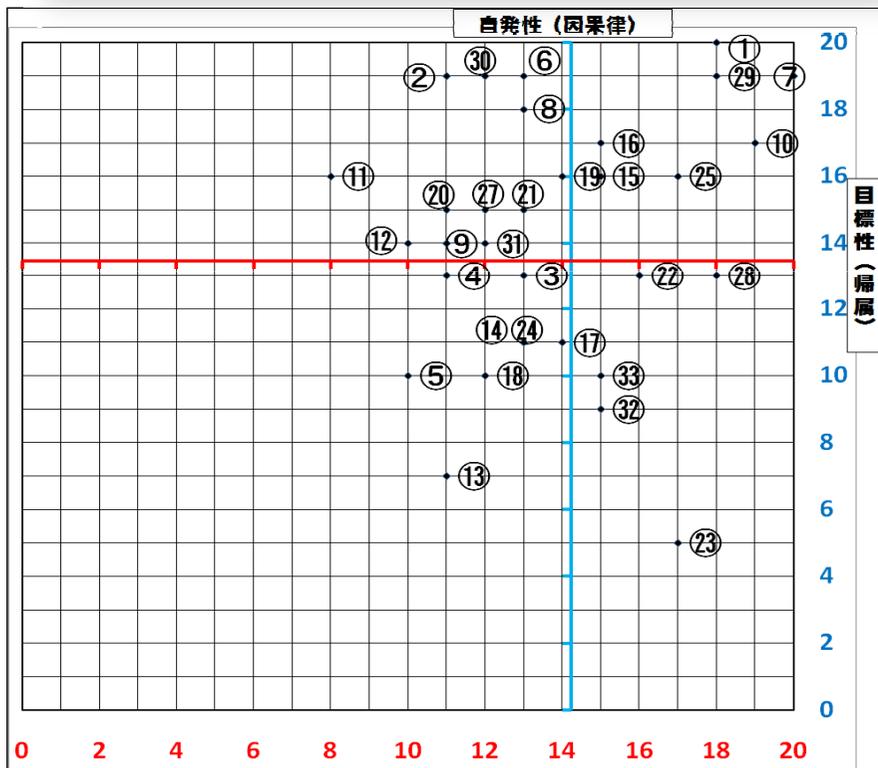
支援サイクルに基づいた研究の取組



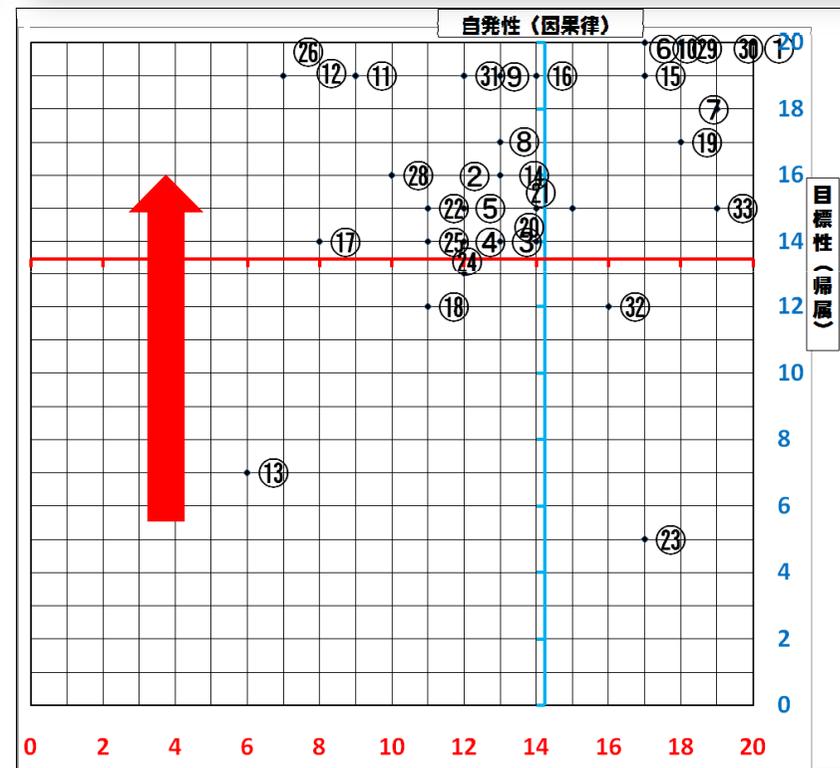
C

取組の評価

取組前



取組中



成果を目に見える形で表すことで、教師の意欲につなげる

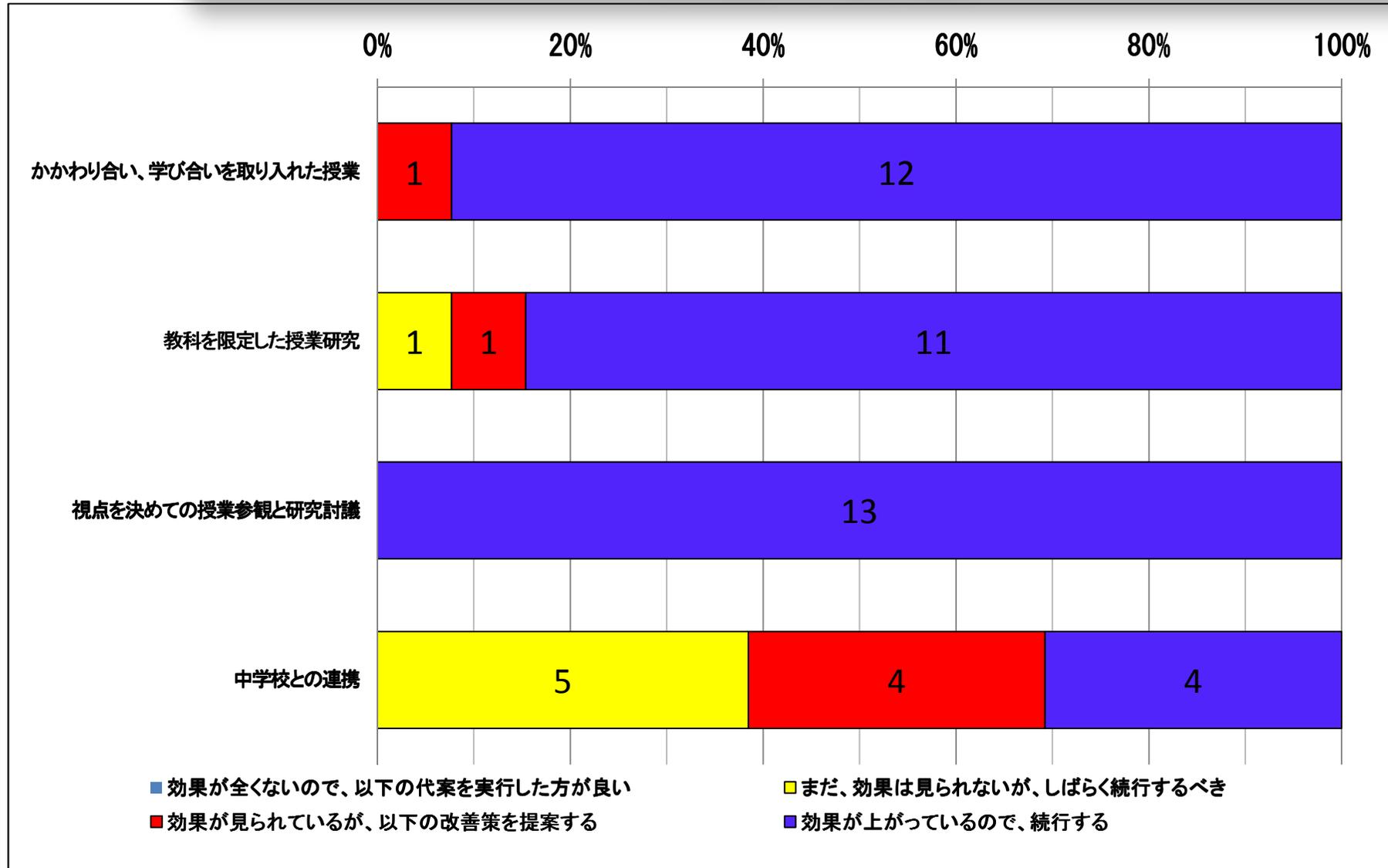
C

取組の評価

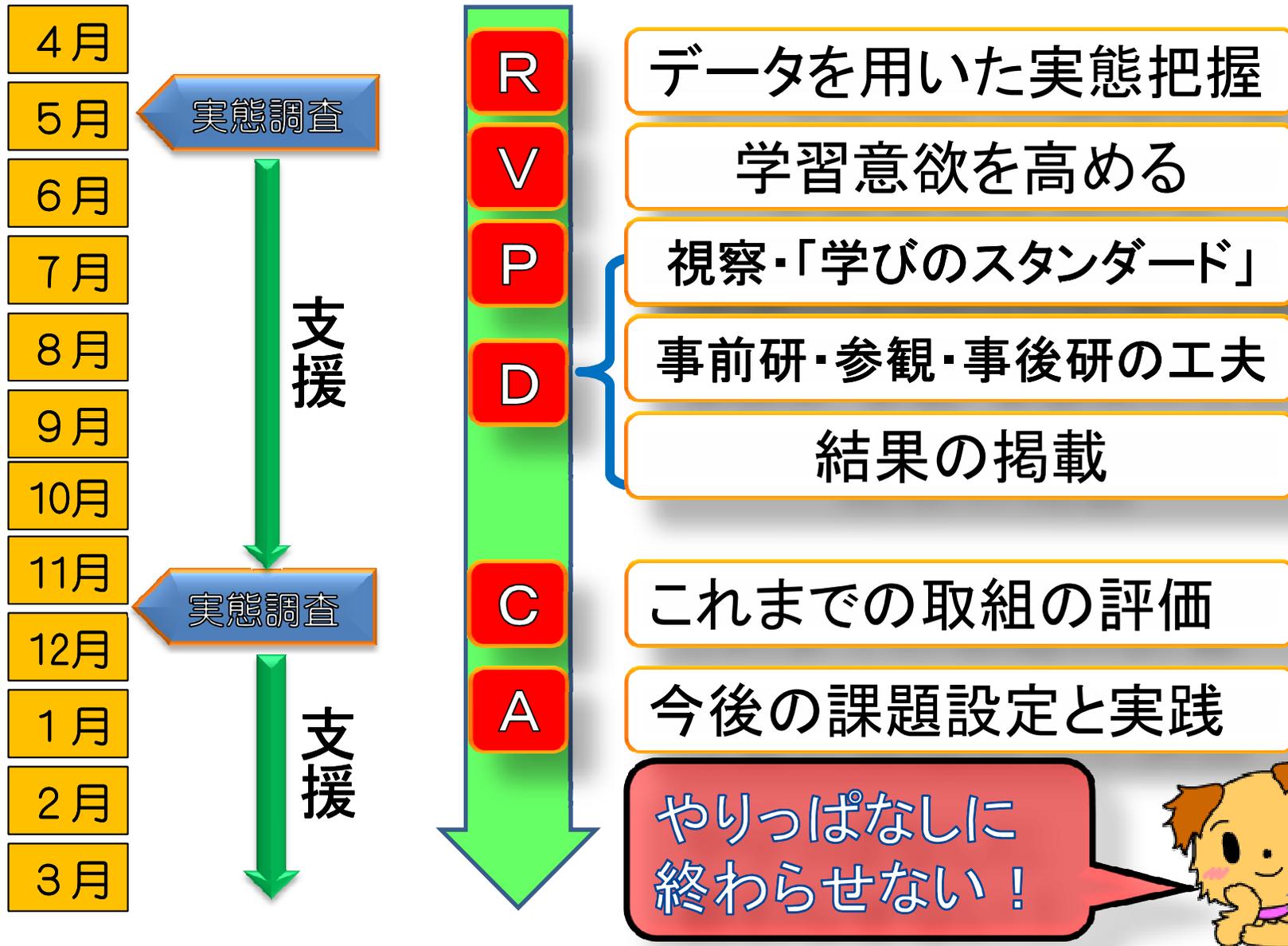
項目	1	2	3	4
かかわり合い、学び合いを取り入れた授業	効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い	まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき	効果が見られているが、以下の改善策を提案する	効果が上がっているので、続ける
教科を限定しない授業研究	効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い	まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき	効果が見られているが、以下の改善策を提案する	効果が上がっているので、続ける
視点を決めての授業参観と研究討議	効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い	まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき	効果が見られているが、以下の改善策を提案する	効果が上がっているので、続ける
仲間作り活動	効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い	まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき	効果が見られているが、以下の改善策を提案する	効果が上がっているので、続ける
中学校との連携	効果が全くないので、以下の代案を実行した方が良い	まだ、効果は見られませんが、しばらく続けるべき	効果が見られているが、以下の改善策を提案する	効果が上がっているので、続ける

C

取組の評価

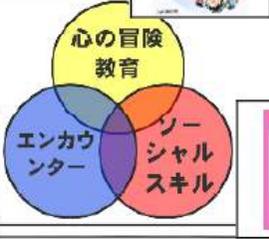
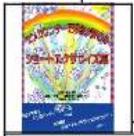


支援サイクルに基づいた研究の取組



今後の方向性

自ら楽しく学ぶ子を育成するための基盤づくり



さて、おさらいです。この前、実施したプロットの形は、ある程度先生方は把握できていると思いますが、大切なのは、「Q-U」のプロット（結果）によって、対応策は違ってくるということです。

医者で言うと、レントゲンの結果によって、処置が異なるのと同じことです。この対応策は大きく2つに分かれます。それは、現状分析から、

- ①個人に対しての対応
- ②全体に対しての対応

①については、特に左下のプロットに位置された児童に行う必要があります。この児童には、まずじっくりと話を聞き、気持ちを受け止めるなどの対応が必要です。場合によっては、担任だけでなく、教職員チームで対応することも出てきます。その点において、今後、個別対応の場合のガイドラインが学校に整備される必要があると思います。（これは、人権部かな？それとも特別支援の役割かな？）

そして、②です。よく「Q-U」のプロットを見ると、個別対応が必要な児童が目がいきがちですが、重要なのは②の方だと私は思います。

全体を右上に引き上げることによって、①の児童も上がっていくのです。だから、両者は同時に進めていく必要があります。

②については、プロットの結果によって、取り組み活動が違ってきます。右図にカラーで

のマークをつけています。それぞれ、のプロットに合ったお勧めのエクササイズやアクティビティです。それぞれの本も

4. 学級調査児童の分布から... 人間関係づくりのタイプ別傾向のポイント

① 満足型の学級：＜ルールとリレーションの確立した健康的な学級集団＞

- ・不安や悩みなど自分の状態について自己開示し、共感や励ましや応援など合うようなエクササイズ。
- ・テーマや条件に応じて、メンバーで役割分担したり、協力し合いながら達成するエクササイズ。
- ・困難を乗り越えたりするエクササイズ。

② 管理型の学級：＜リレーションの確立がやや低い学級集団＞

- ・2～4人程度の小グループから始める。
- ・子どもたちの関係に配慮し、教師がグループを作る。
- ・ゲーム性の高いエクササイズから始める。
- ・自己表現の場を提示し、自己開示しやすくする。
- ・グループでワークシートを使って話し合うエクササイズ。

③ 放任型の学級：＜ルールが確立がやや低い学級集団＞

- ・2～4人程度の小グループから始める。
- ・ルール、条件、やることなどがはっきりして、自由範囲の範囲が広いエクササイズ。
- ・ルールを積極的に示す。
- ・グループでワークシートを使った「いいところ探し」を、かかわりの場を創出し、それに促して活動させる。

④ 放任型かつ無関心の学級：＜ルールとリレーションの確立がともに低い学級集団＞

- ・ワークシートを使って話し合いの場からスタート。
- ・対応していない、マイナスを土台から取り除くことでグループ化させる。
- ・インストラクション図解を積極的に示す。
- ・10分程度のレクリエーション活動も多く取り入れる。
- ・シニアリングシートに書き込ませ、教師が紹介する。

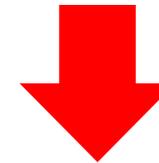
⑤ 放棄した学級：＜ルールとリレーションが喪失した健康状態の学級集団＞

- ・子ども同士の間隔は充分開ける。
- ・一人でできるワークシートを使ったエクササイズ。
- ・O×式、漢字など簡単なエクササイズ。
- ・マイナス方向に動いている時は、エンカウンターはしない方がよい。「どうなのかい」という友だちがあれば、エンカウンターをやる必要がある。

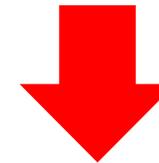
駄目！どれも使っては

たくさん紹介されていますので、夏休みなど読んでみて欲しいと思います。そして、9月からの「仲間作り活動」等に活かして頂ければと思っています。

Q-Uの実施(5月)

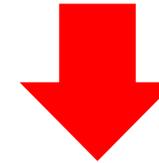


各学年の実態を把握



仲間作り活動

- ①心の冒険教育(協力活動)
- ②エンカウンター(受容感)
- ③ソーシャルスキル(ルール作り)

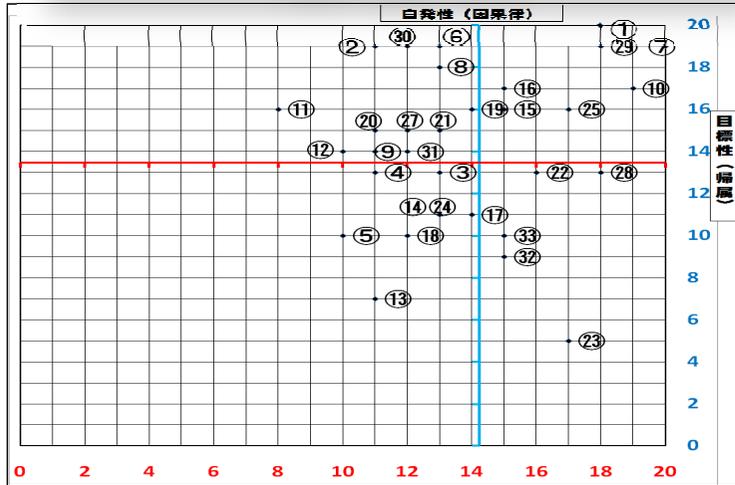


学級の実態に応じて3つのツールを用いた仲間作り活動を実施

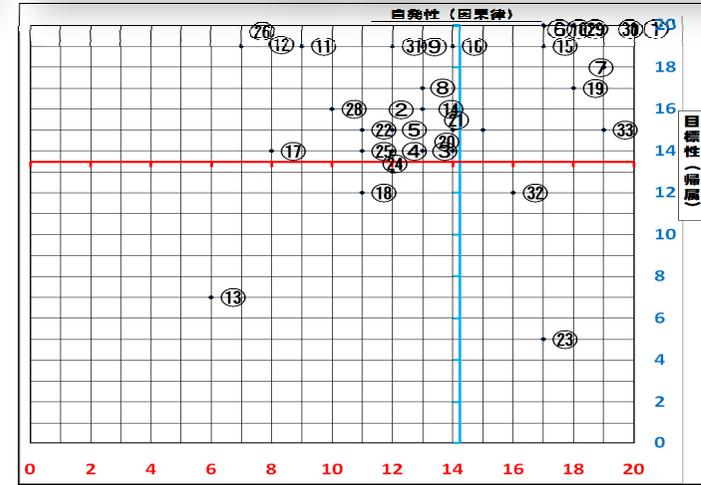
今後の
方向性

日々の実践の中での「学び合い」の継続性

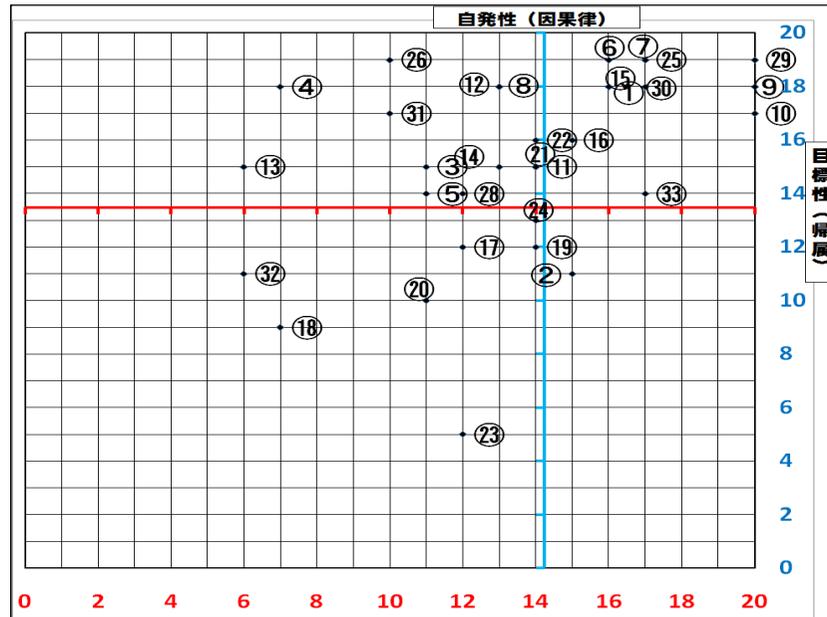
取組前



取組中



取組後



継続した取組の 必要性

保小連携

公開授業研究会

ご静聴ありがとうございました。

「学び合い」の授業風景

学校応援団による放課後体験教室